



堀場製作所OB会

# 会報

通巻28号

発行日 平成22年8月27日

発行者 堀場製作所OB会

川越 幹

編集者 山本広太郎

## ◆第2回定例幹事会

## ◆東京支部定例会

## ◆クラブ活動報告

- ・山遊会
- ・グランドゴルフクラブ
- ・釣りクラブ

## ◆堀場OBボランティア部会

- ・定例「鴨川クリーンハイク」に参加
- ・鴨川を美しくする会主催「鴨川茶会」に参加
- ・鴨川を美しくする会主催「鴨川納涼」に参加
- ・京エコロジーセンター 環境ボランティアスタッフになって

## ◆堀場OBキャリア活動

- ・KSVU活動状況
- ・京都モノづくり殿堂・モノづくり工房学習について

## ◆OB会行事報告

- ・春の懇親会
- ・レジャー例会 … インクラインの桜見物
- ・夏の懇親会
- ・東京支部研修旅行
- ・日帰り旅行  
…朽木ファンハウス見学と若狭カニ旅行

## ◆会員寄稿文

- ・クライシス・マネジメント …高田康光
- ・黄金の輝きと伝説物語（私の石物語②）  
…福田弘秋
- ・出前授業 …石黒英憲

## ◆OB会連絡

- ・新入会員紹介
- ・新入会員懇談会開催
- ・会員の訃報
- ・堀場OB会ホームページ紹介
- ・堀場製作所OB会会員一覧について

## ◆ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

## ◆編集後記



### 祇園祭・・・「船鉾」

今年も京都では、山鉾巡行が賑やかに行われました。写真の鉾は、「日本書紀」の神功皇后の新羅出船を題材にした鉾です。またご神体は、安産の神とされ、船の周りには、多数の岩田帯が巻かれています。

最近の日本の状況はかなり病んでいます。

神がかりでも何でも、希望に満ちた船出が待ち望まれています。

## 定例幹事会

### 14期第2回定例幹事会

平成22年6月11日、本社OB会室にて、川越幹、小谷昌男、山本広太郎、田中光子、梶並強平、酒井俊英、船越 健 (欠席:福田弘秋・東京) の7名出席にて行われました。

◎第14期前半の諸活動・予算執行状況の確認と評価は、年間計画に基づく各行事の実施状況、各クラブ活動状況は、計画どおり実施されたことを確認しました。

予算進捗状況については、収入の部は、会社の緊縮予算に協力して、援助金を前半は、1/2削減を受け入れました。後半については、復活頂けるかどうかというところです。

尚、年会費不支払者は、現状12名で、再度督促し、また延滞金を取ることも提案されました。

◎後半の諸活動予定については、鴨川を美しくする会のボランティア、鴨川クリーンハイク、鴨川納涼とも継続し、参加者の範囲も拡大してゆくことになりました。

◎モノづくり学習支援員〔京(みやこ)モノレンジャーに登録〕京都モノづくりの殿堂・工房学習支援員としてOB会から19名を登録しました。

【内容】3, 4, 5年生の小学生を対象として、体験学習支援と展示学習支援の各ボランティア活動に参加する。KSUVでは、参加者のオリエンテーションを8/31からスタートする。各担当会社等詳細は、

後日決定される。

◎夏の懇親会は(7月31日に開催)今回は雅風荘にて行い、定員40名のため、申し込み順としました。

◎東京地区も新規退職者の入会も期待され、さらに活発な活動を予定しています。

◎来期の幹事体制については、基本的シナリオは、今期に新幹事候補者を幹事会にて内定し、次回年次総会にて承認を受け15期は、現幹事と共に活動する。そして16期から幹事の一部が交代する計画となりました。

◎第15期年次総会の内容とスケジュール・運営等については、最高顧問と社長のスケジュールを確認中で、それが決まり次第、新コンセプト及びプログラムの構成、各準備作業と担当者の決定等準備にかかることになりました。

◎会費の振り込みの件については、現状入会時、入会費(5000円)と年会費(2000円)計7000円を一括して振り込んでいるが、期の後半入会者は、年会費が不要としているため、少し混乱しましたので、今後入会時は、入会金のみ徴収することに変更することになりました。

◎次回第3回幹事会の開催日は、平成22年9月10日とし、年次総会の最終確認のため、全員万障繰り合わせて出席することになりました。

(川越 幹)

## 東京支部定例会

平成22年4月8日(木)12:30~14:30 東京セールスオフィスのエクセレントルームにて、今期第2回の定例会が開催されました。

出席者は、TSO芦田副所長、OB会から寺西英三、草鹿悌二、辻川毅、土屋富夫、玉置健三、谷口義晴、大道寺秀弘、海野興一郎、そして今回は京都から川越幹代表幹事の例会初参加を含めて計10名となりました。

例会は、まず始めに現役の芦田TSO副所長より、会社の近況についてパワーポイントを使い詳細報告があり、現在会社を取り巻く大変厳しい状況を各自認識しました。

続いて、川越代表から本社OB会の今年度の重点方針と諸活動概況の説明がありました。今年もOB会の年間計画に従って、着実に諸活動を実行していることが説明され、特に今年度

は、ボランティア活動、学校教育のサポート等社会への貢献活動を積極的に行っていることが報告されました。

懸案の東西合同懇親会の開催については、東京からの参加が主として費用面で厳しく、尚検討する必要があることが問題となりました。

今期東京の「一泊懇親会（ゴルフ付き）」計画について、谷口氏より具体的なプランの説明があり、現状11名の参加が見込まれています。尚、OB会の支出予算の中で、今回の旅行中の

共通費用としてアクアワールドの入場券の援助予定や、また定例会議出席者の自宅からの交通費の半額補助を今期から実施し、参加者の負担軽減（特に関東地方は交通費の負担が大）が第一回に遡り実施されました。

定例会終了後、いつもの「大新」にて懇親会を開催し、皆さん格調高い話題の応酬とともに、今後続々と輩出する定年退職者のOB会への入会を願い、大いに氣勢が上がりました。

(川越 幹)

## クラブ活動

### 山遊会

#### — 第13回例会 —

- ・実施日：平成22年4月3日（土）・快晴
- ・行先：三上山(432m)～妙光寺山(270.5m)
- ・参加者：池田 俊明、下川 和子、萩原 孝一、高橋 義治、下川 博司、橋口 純男、丸山 博、森本 順孝

京都駅8時35分集合、45分発の野洲行き新快速に乗り9時13分終点野洲駅で下車。ここで滋賀交通バスに乗り換える予定だったが、3月のダイヤ改正で発車した後。タイミングよくコミュニティバスが目の前に、御上神社手前の公民館まで行くとのことで乗り込む。聞けば4月1日からの運行とかで新車の臭い共々、ルートを間違え迷走しながら公民館に。10分余り国道8号線を歩きまは御上神社へ。ここは二千二百年前に天之御影神が三上山に降臨され、三上山を御神体として鎮祭された神社で、本殿は鎌倉時代の建造、国宝に指定されている。まずは本日の登山の無事を祈願して登山口へ向かう。10時10分表道に行く。標高180m妙見堂跡まで急な階段道が続き、後は岩交じりの急坂となる。11時丁度に頂上展望台に到着、しばし眼下の眺望を楽しみ恒例の記念撮影の後近江富士花緑公園に向けて下山。11時45分公園内の東屋で昼食とする。日差しは温かいが、日陰は風が冷たい。12時20分出発、標高200m付近まで下山した道を登り返し、右に折れて妙光寺山へ。公園の池

を右手に見下ろしながら進む。振り返れば見事な三角錐の三上山が、思わずシャッターを押す。程なくして分岐点となり、「古代の道」の標示に沿って進む。何度かアップダウンを繰り返し14時5分妙光寺山頂に到着、3枚目の記念写真を撮る。山頂は雑木が囲み眺望はゼロ。少し戻って急坂を降り、途中鎌倉時代の磨崖仏に立ち寄り14時40分登山口に降り立った。ここから国道8号線を経て旧中仙道を通って野洲駅へ戻る予定であったが、国道に出たところでタクシーを呼び、野洲駅前の「ほほえみ乃湯」へ直行。入浴後ビールで乾杯、晴天に恵まれ穏やかな春の山行に満足し、次回の山行を約束して野洲駅発17時35分に乗車し帰路についた。

(下川 博司)





## － 第14回 例会 －

- ・実施日：平成22年4月30日（金）・晴れ
- ・行先：天ガ岳（788m）
- ・参加者：池田 俊明、下川 和子、萩原 孝一、  
下川 博司、丸山 博

シャクナゲを見るならGW以後では遅すぎると云うことで日程を変更。当初7名の参加予定だったが直近で各々所用が生じ2名が不参加となり5名での山行となった。

7時30分出町柳駅に集合し、7時45分発の京都バス朽木学校前行きで小出石へ。8時20分下車しとりあえず登山口に向かう。数パーティ同時進行。登山口で態勢を整え8時50分出発、稜線に出るまで急坂が続く。9時20分標高490mの稜線にでた。ここから高压線の鉄塔までシャクナゲ尾根となる。日程変更は大正解で、道の両側次々に清楚な花あり赤い蕾あり、ミツバツツジとの競演ありで、証拠の記念撮影や山菜のコシアブラ採りなど道草をしながら稜線を行く。乾燥注意報が出るほどの爽やかな気候で歩いていても気持ちが良い。後から来たパーティにも追いつかれ、10時50分鉄塔、百井峠分岐の手前ではイワウチワの群生場所があり、可憐な花をカメラに納め、12時10分ようやく天ガ岳山頂に到着。恒例の記念撮影をして昼食休憩とする。山頂は眺望が悪く三角点

もない。12時50分下山間際に鞍馬方面から登ってきた女性2人からギンリョウソウがあったと教えてもらう。13時40分三又岳通過、静原への分岐を過ぎた辺りでギンリョウソウを発見。よく見ると道の両側にところどころ落ち葉の下から遠慮がちに頭を出していた。

14時30分標高525mの三角点で小休止をして15時15分薬王坂にでた。ここから鞍馬までは京都一周トレイルコースとなる。雲行きが怪しくなって先を急ぐ。15時35分京福電鉄鞍馬駅に着き11.6kmのロングコースを終えた。

1分程で電車がでると駅員から告げられ急いでキップを買い乗り込む。16時10分出町柳駅に到着、無事解散となった。

（下川 博司）



## 釣りクラブ

2010年5月6日、木曜日、5月の連休明けの日に、堀場OB会釣りクラブの行事の第2回目として、朽木溪流魚センターでのイワナ釣りに出かけました。

この朽木溪流魚センターは、きれいな空気と静寂な緑の空間に囲まれ、しかも少々雨でも川の水が濁らない谷に隣接し京都市内（岡崎）より車で約1時間の朽木より、京都市左京区の花背峠に抜ける途中にあります。

水がきれいな為か、養殖されて放流されたイワナが、美味しく、堀場釣りクラブが、30年来毎年釣り行きしている場所です。川に沿っ

て、約25区画の釣り場と、つかみ取りもできる区画が15区画あり、バーベキューもできる（有料）屋根付きの施設や、宿泊施設、食堂もあり、年々拡大発展しているようです。

朝5時前に自宅を出て、同乗者宅に5時に車を止め、5時40分に、朽木溪流魚センターの手前の川で6時半まで、餌になる川虫をとり、同時に同行者の丸山、池田さんと合流し、6時40分ごろに、現場に到着した。

京都から八瀬、大原花折峠経由の路は、新緑が見事で、天気も良く気分爽快で、釣り気満々。

入漁券と餌のブドウ虫とイクラを購入し、好きな区画に入り、7時より、居残りのイワナを釣り、8時より、イワナを放流してもらい15時まで、釣ることに没頭した。

今年のイワナは、春の天候不順のせいかどうか不明だが、形が例年よりも少し小さく糸を切られほどの大物は、出てこなかったが、数は30匹前後であった。

天気予報よりも天気がよく、初夏の新緑のすがすがしい空間の中で、気分よく楽しい一日を満喫した。

もちろん、夕食にイワナの塩焼きとビールで最高の日でした。

同行者、釣りクラブ員 下川、丸山、池田さんでした。

次の行事は、小浜湾のキス釣りです。これもまた美味しい。

(西田 祐一)



## 堀場OBボランティア部会

### 鴨川を美しくする会主催 -22年度第1回鴨川クリーンハイクに参加-

平成22年4月29日(木)、絶好の天気恵まれ、今回はOB会から周田光男、永瀬禎一、萩原孝一、川越 幹の4人が参加しました。

今回のクリーンコースは、五条大橋から丸太町橋までで、私たちは、ゆっくりと東岸のゴミ拾いを行いました。しかし若手学生ボランティア団体は、折からの床シーズンの到来に合わせて、床下の疏水に長靴姿で入り、川底の石をブラシで磨いていました。

現在の鴨川の両岸は、一見美しい様に見えるが、実際にゴミ拾いの眼で見ると、植え込みの中に空き缶や乾電池が捨てられている等、まだまだゴミ拾いが必要と思われました。

そして、最近タバコ料金の値上げや、喫煙の肩身の狭さから、禁煙者が増えていると思っていますが、交差点の信号待ちの地面には、タバコの吸い殻のポイ捨てが相変わらず多く、喫煙者のマナーの悪さに今更ながら憂いを禁じ得ませんでした。

途中、鴨川から西対岸の新しく建った一棟のマンションの外観が異常に白っぽく、その形も周辺との違和感があり、京都市の景観規

制条例からみて、どうして建築許可を出したのか等ぶつぶつ言いながら我々は1時間超で終着点の丸太町橋西詰に到着しました。今回は、参加者が比較的少なく、それだけに主催者から大変感謝され、次回6月6日もよろしくと希望されました。

何せ会社のロゴのユニフォームを着用している団体は、我がOB会しかなく、絶好の会社のPRの場としても、今後とも皆さんが全員交代で参加をして頂きたいと思った次第です。

作業後びっくりドンキーでささやかな昼食を摂りながら歓談の花を咲かせ、快い疲れとともに開きとしました。(川越 幹)





## 鴨川を美しくする会主催

### -22年度第2回鴨川クリーンハイクに参加-

平成22年6月6日(日)の午前10時から11時半に行われた鴨川クリーンハイクに、今回は堀場OB会から山本広太郎、酒井俊英、森山晶成、石黒英憲の4名が参加しました。

他ボランティアグループも参加する中、私たちは鴨川の東側河原と川端通の歩道を五条大橋から丸太町橋までのごみを拾いながら歩きました。

歩道側はタバコの吸殻や銀紙が多く、河原には弁当の空がらや空き缶が多くあり、中には古着や使い古しのバスケットなど持ち込みごみなども有りました。

小生にとっては初めてのクリーンハイクの体験でしたが、2時間足らずで3kmほどのハイキングは清々しい気分になり、楽しいものでした。また終了後は4

人で一緒に昼食を取りながら新しい情報交換ができ、非常に有意義な半日でした。

8月には恒例の鴨川納涼が開催され堀場OB会も参加します。今後も参加させて戴きたいと思っております。

(石黒 英憲)



## 鴨川を美しくする会主催

### — 第36回「鴨川茶店」に参加 —

去る4月10日、11日、北大路橋東岸の鴨川沿い「なからぎの道」河川敷公園で「鴨川茶店」が京都鴨川ライオンズクラブと鴨川を美しくする会主催で開催され、堀場製作OB会から11名の有志が参加しました。

「鴨川茶会」は今年で36回目の歴史のある行事で、憩いの場として整備された鴨川河川敷公園の「なからぎの道」に茶店を設け、道沿いの紅しだれ桜を觀賞して、河川美化意識高揚と美化運動の輪を広げる事を目的に開催され毎年、多くの市民、観光客で賑わい、河川敷には啓発コーナー、地域の特産品展示販売コーナーが設けられ、京都府警平安騎馬隊による写真撮影会、京都市立加茂川中学校吹奏部による演奏が茶会に花を添え、河川敷公園に設けられた特設ステージでは尺八や琴の演奏が行われ、門川市長も来賓でお越しになり楽しまれていました。

今回も多くのボランティア団体が参加され、ゴミ分別、駐車場整理などを担当、堀場OB会は、安全管理を担当、物品搬入業者の駐車エリ





アの管理を担当しました。

隣接の京都府立植物園の駐車場が満杯のため駐車エリアに一般の車が流れて来るためその交通整理が大変でしたが、特に大きな問題も無く終える事が出来ました。

両日とも朝早くから午後3時半の間、交代で休憩しながらも立ちっ放しで、シニアには負担の大きい仕事でしたが、有意義な1日でした。今回参加いただいた皆様、ご苦労さまでした。

(山本広太郎)

## 鴨川を美しくする会主催 —第41回「鴨川納涼」に参加—

8月7日(土)、8日(日)夕刻から恒例の河川美化啓発活動「鴨川納涼」が三条大橋～四条大橋間の河川敷で開催され、堀場OB会から梶並強平さん、周田光男さん、酒井俊英さん、山本の4名が参加、会場での安全管理を担当しました。

鴨川納涼は、「鴨川を美しくする会」結成5周年を記念して、昔懐かしい夜店を再現しようと昭和44年に第1回が開催され今年で41回目の開催となりました。

啓発コーナーをはじめ青少年カルチャー体験コーナー、イベントコーナーなどが設けられ、各都道府県の京都府人会によるふるさと産品即売会コーナーは特産品を求める人々で大賑わいでした。

今年は8月6日～15日間、「京の七夕」が堀川会場、鴨川会場で開催され、「鴨川納涼」は鴨川会場の行事の一環として開催されており、多くの人々が訪れ、大変な人出でした。

今年の夏は異常な猛暑続きで耐えがたい日々が続いており、OBにとっては酷な対応でしたが、事故もなく無事役目を終える事が出来まし

た。参加いただいた皆様、ご苦労様でした。

(山本広太郎)



## 京エコロジーセンター —環境ボランティアスタッフになって—

京エコロジーセンター(略称:エコセン)は1997年に開催された地球温暖化防止京都会議(COP3)を記念して京都市が2002年に京都市伏見区の青少年科学センターの敷地内に建設したものです。

環境にやさしいさまざまな工夫された建物で館内のトイレは雨水を地下タンクに貯めた水を使い、地熱を利用して冷暖房のエネルギーを節



約し、太陽光発電はもちろんのこと、断熱の工夫、再生素材の利用等建物そのものが展示物となり京都市民が地球温暖化防止やごみ減量に取り組む場として活用されています。

エコセンには市民から公募された多くのボランティアが参画しています。

私も今年の4月よりボランティアとして、来館者への館内案内、外部出展のお手伝い等を行っています。OB会でのスタッフとしては船越 健さん、酒井俊英さん、石黒英憲さん、周田光男さんらが活躍されています。是非OBの皆様もボランティアスタッフとして参加されてはいかがでしょうか。(湯浅 一郎)



## 堀場OBキャリア活動

### KSVU (NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会) 活動状況

KSVUは京都ならではの独自技術を持った企業や行政グループ 8団体で構成された連合体で、OBシニア人材の優れたマンパワーと培ってきた経験値をもとに、自らの生きがいきりくと、社会貢献支援活動をおこなっています。

もちろん堀場OB会の「堀場OBベンチャー&ボランティア部会」がKSVUの会員として参加しております。

KSVUの事業内容は大きく下記の4つの事業です。

- ①中小企業・ベンチャー企業支援事業
- ②地域貢献事業
- ③教育活動支援事業
- ④社会奉仕活動

この中で①の中小企業・ベンチャー企業支援事業は昨年までの新現役チャレンジ支援事業として活動をしてきました。昨年度は70件の支援が成立しました。

本年度は中小企業応援センター「新現役マッチング事業」として京都地区の中小企業からの多額の支援依頼に対し、シニアOB人材をマッチング派遣し、中小企業の抱えている問題を解消・解決するための支援に取り組んでいます。

その中でも◆省エネ支援 ◆知財支援 ◆KES/Pマーク支援 ◆教育セミナー支援活動はKSVU人材の得意とする支援活動です。

本年度の活動は支援の仕組みの確立がずれ込んだため、マッチング件数は8件ですが、後半に増加して行くよう努力中です。

一方、省エネ支援活動は「京都温暖化防止センター」と協力支援体制を構築し「電気のみえる化無料診断」で既に11件の支援を行っており、多くのKSVU人材が活躍しております。

②の教育支援事業では「モノづくりの殿堂・工房学習」の学習支援員「京モノレンジャー」としてKSVUより70名が登録し、小学4・5年生に理科学習の一環として本物のモノづくりをKSVU人材の手で教えています。

堀場OBからも19名の登録をいただき、「PHをはかる」のカリキュラムで子供たちに指導支援をしてもらっております。

その他KSVUでは、★講演会(各クラブと共催/年3回) ★企業訪問(京都企業を知ろう! 年2回) ★料理教室(男の料理教室/年4回)等々を企画開催しております。

堀場OBの皆様も奮ってのご参加をお待ちしております。

(KSVU事務局 船越 健)



## 京都ものづくり殿堂・モノづくり工房学習について

京都市は平成21年2月にモノづくり企業創業者の生き方やモノづくりへの情熱等を展示する「京都モノづくりの殿堂」と殿堂に関連するモノづくりの体験学習を行う「モノづくり工房学習」が「京都まなびの街生き方探究館」に開設されました。

この「モノづくり殿堂と工房学習」は小学校4～6年生が学校教育活動の一環として展示・体験学習活動を行います。

この度、モノづくり殿堂と工房学習を支援する「モノづくり学習支援員・京モノレンジャー」をKSVU会員に向け募集され、堀場OB会からボランティア部会メンバーおよび協力者19名を登録しています。

学習支援のカテゴリーとして、①体験学習支援ボランティア、②展示学習支援ボランティアがあります。

①の体験学習支援ボランティアは「モノづくり工房」で先端技術の原理や仕組みを組立や実験の体験を通して学びますが、支援員は指導、支援活動を担当します。

②の展示学習支援ボランティアは「モノづくり殿堂」に設けられた京都を代表する16社のブース展示で企業の歩み・技術・モノづくりの変遷等の展示パネルの説明を担当します。

堀場OB会は平成21年度、堀場製作所（コーポレートコミュニケーション室）担当の体験学習（PH測定）を7名が7講座担当しました。当面は、「モノづくり学習支援員・京モノレンジャー」として幅広く活動に参加しますが、堀場製作所担当の体験学習（PH測定）については

OB会の体制が整い次第、OB会が学習全般を担当する方向で進めています。

登録済の19名以外の方で、この活動に興味がある方は是非参加いただきますようお願いいたします。



詳細な内容につきましてはKSVU担当幹事の酒井俊英さんにお問合わせ下さい。

（山本広太郎）

## OB会行事報告

### — 春の懇親会を開催 —

春の行楽シーズン、桜の開花が報じられる中、第14期春季懇親会が開催されました。

3月20日（土）、気温は20℃を超える暖かい日、正午からいつもの「がんこ高瀬川二条苑」の嵐山・清滝・たかおの3室を一つにした部屋で、36名という多数で盛大に開催されました。

椅子席は、定番のくじ引き方式でランダムな席となり会員間の盛り上がった話題交換が行われました。

川越代表幹事の挨拶に続き懇親会がスタートされました。料理は、春の「すし懐石」と飲み放題のメニューと合わせて美味しくいただきました。

（近田 伯久）





## レジャー例会 — インクラインの桜見物 —

平成22年4月4日（日）地下鉄「蹴上駅」10時に集合、一行8人は、絶好の花日和の中で、インクラインから南禅寺そして哲学の道を散策しました。今年は開花が一週間くらい早いのではと懸念していましたが、先週突然の寒波が開花予想を元に戻し、今回ドンピシャの満開に当たり、それに誰かの精進の良さも相まって、大勢の一般の花見客ともどもこれ以上無いと思われる絶好調の花見例会となりました。

今年のインクラインには、満開の桜の下に新たに復刻された三十石舟が乗せられていて、当時の風情が再現されており、早速一行は、ここで記念写真を撮りました。そしてインクラインの頂上付近から北へ向かって疏水の流れに添って細い道をウォーク、南禅寺の水路閣に到着、ここでも満開の桜を満喫、和風結婚式のカップルを羨ましく眺めたり、

お線香の煙を頭に振りかけ頭を良くしようとしていたり、スケッチする外国人の風景を写真に収めたり等と楽しみました。

ここで一行の中に、いつものことながら早くも腹が減ったとの声が上がったので、予定のコースを入れ替えて、取り敢えず昼食を済ませようと東天王町の「ホテル平安の森」に直行、日替わりの上品な和定食でひとまず腹ごしらえを済ませました。





食事のあと、最後の目的地の哲学の道を途中から入り、そして若王子神社に向かいました。ここでも銀閣寺に向かう花見客で大変賑わっていました。

今回は、桜を満喫することが目的のため、距離的には、ショートコースでしたので、午後2時頃には、振り出し点の蹴上に戻ることが出来ました。

最後にインクラインの傍にある琵琶湖疏水記念館（入場無料）に入り、昨年開館20周年を記念して展示資料の充実、リニューアル化が図ら

れた疏水工事の歴史展示を興味深く見学、明治初期の人たちの努力により、今日の私たちがいることに対して感謝と認識を深めた次第でした。

今回は研修的側面でのOB例会も兼ねることが出来ました。見学後、お開きとし蹴上からそれぞれ帰路に着きました。

参加者（敬称略）

川越 幹、澤田喜行、周田光男、田中光子、西尾勝治、萩原孝一、矢野久雄、山本広太郎

## 一 夏の懇親会を開催 一

平成22年7月31日（土）夕方からOB会員30名出席のもと、夏季懇親会が開催されました。同懇親会は、頑固にもずっと二条の「がんこ」で行われてきましたが、今回初めて、堀場製作所のご厚意により「雅風荘」で開催されました。

「雅風荘」は大幅改装されて以来、初めての方もあり、新旧の雅風荘についての想いで話や、会員同士の活発な話で大いに賑わいました。また、最高顧問や社長の若いときの写真パネルが会場に花を添えていました。

お料理は、典座さんによる季節感にあふれた

素晴らしいものでした。宴は、和気あいあいの中で時のたつのを忘れるうちに進行し、源田さんの元気な一本締めでお開きとなり、大変楽しく懇親会を終えることができました。お世話をされた幹事さんに感謝いたします。

少し残念だったのは、参加者が諸般の事情もあったと思われませんが、募集定員より少なかったことでした。

なお、10月の「年次総会」には、会員同士誘い合わせて多数の参加を呼び掛けることが期待されました。よろしくお願いします。

（森本 順孝）



## 一 東京支部研修旅行 一

東京支部定例の外部施設見学&健康スポーツ研修会を6月11日（金）～12日（土）に参加者10名で茨城県大洗地区で行った。

初日は、かすみがうらOGMゴルフクラブで2組6名によるゴルフ、梅雨入り直前の貴重な快晴にも恵まれ全員が最高の汗をかくことができた。

結果は、昨年に引き続き谷口さんがベストグロスマンに輝かれました。おめでとうございます！

夕方、ゴルフ不参加組と「かんぼの宿 大洗」で合流し自慢の天然温泉で汗を流した後、鮑のおどり焼きをメインディッシュとする豪華磯料理（海遊プラン）でお酒も進み、至福のひと時をおおいに満喫できた。

翌日は、朝食後に近くにある那珂湊魚市場で1時間ほど新鮮な海産物土産の買い物に勢を出し満足したところで、茨城県大洗水族館「アクアワールド」へ移動、テーマ別、地域別に展示された珍しい魚類、はく製、関係資料などを見て生物界の広

さ、不思議さを再認識させられた思いであった。また10時から満員盛況のイルカ・アシカショーを楽しみリラックスした半日を過ごすことが出来た。その後磯料理「もり田」で昼食をとり12:45に散会となった。

参加者：草鹿、辻川、土屋、玉置、大道寺、谷口、龍、海野、新井、福田

（福田 弘秋）



## 日帰り旅行

### 一 朽木ファンハウス見学と若狭カニ旅行 一

2月17日(水)冷え込み寒い早朝、好意で提供して頂いた会社のマイクロバスで京都駅八条口西の新みやこホテル前から朽木に出発する。バスでの参加者は23名でバスが動き出すと、もう情報交換など賑やかになる、大原を過ぎると小雪も降り出し、花折峠辺りからは気温も下がり、昨夜からの雪が山の斜面の樹木に雪の花を咲かせて、ほんとに綺麗な景色の連続で堀場製作所朽木研究センター「ファンハウス」に9時半到着した。

古いファンハウスは平成11年12月にOB会での1泊研修が行われた、以降手狭などのため増築が行われ、昨春完成し今回再び素晴らしいファンハウスを見学する機会ができた。森井館長

の出迎えを受け、施設の案内説明を受ける、昼間には冬でもあまり見られない安曇川やその周辺の雪景色を見ながら、新しい建物は鉄筋コンクリートで気密性が高く、100名以上収容可能でその為の数多くの部屋や設備を見学し終えて、天井の高い柔らかな感じの大きな食堂でお菓子と暖かいコーヒーのもてなしも受けた。

こんな素晴らしい環境と設備で研修をされるホリバリアンの皆さん、より高い創造性を発揮されるようお祈りして、お礼を述べて入口で集合写真を撮り小浜市に出発した。

途中は雪降りの天気の中を11時半頃に市街地内の高層ホテル「せくみ屋」に着く、すぐにラジウム温泉の大浴場で体を温め、そのあと昼食の「若狭カニ会席」の宴会になる、カニを始め色々な料理をゆっくりとお喋りしながら飲み



食べてお互いの親睦を深め、大いに満足した。

帰りは雪も止み、湖西側に回り工事のため少し渋滞はあったが、JR山科駅近くを経由して17時半過ぎ京都駅八条口で無事解散する。企画

運営して頂いた幹事の皆さん、そしてファンハウスでお世話になった堀場製作所の関係者の方々にお礼申し上げます。（西田敏彦さんは自家用車にて参加）



## 会員の寄稿文

### クライシス・マネージメント 高田康光

ことしも福岡県西方地震から5年が経過した3月21日がまたやってきました。当日は車中であり外出していて気付くのが遅れましたが、1ヶ月後の余震の時は家にいて2階の本棚が倒れて1階に散乱し、金魚の水槽が揺れて水浸しになり、「今度の地震の方が大きい」とのち長女の話に納得したものです。

「このままではいかん」と考え、応急手当普及会の指導者や防災士の資格を取り、様々な催しにサポーターとして参加することになりました。勿論土日のボランティアの一員です。福岡では「防災どんたく」と称しNPOなどを動員し、福岡県・市主催で協賛という形をとり

ながら色々な市民啓発運動を行っています。これは、神戸市を中心とした15年後の阪神・淡路大震災を機に見直されてきたものです。町内会には自主防災組織ができ、地域には月数回の勉強会、市は揺れやすさマップやハザードマップを刷って各家庭に配布しています。

地震国の日本では防災は無理でも自助・共助・公助（自治体）とあって、危険管理能力のない日本の現状では、自分の身は自分で守り、そのあとは家族、町内会、地域と伸びて行くことで減災は可能と思います。もっともっと防災能力を高める努力を痛感します。

新潟中越沖地震や阪神淡路大地震の時、生き

残った人がどうしていたのか等、各方面の話を聞いて最悪の状況を考えてOBの皆様だけでも日々精進する必要があります。

本社から離れ、福岡の地で再雇用の身ではありませんが、マイナスのイメージ回復の為に近況を報告させて頂きました。

## 黄金の輝きと伝説物語（私の石物語②） 福田弘秋

黄金について皆さんはどのようなイメージをお持ちですか？

金塊、大判小判、金色堂、ゴールドラッシュ、財宝・・・・・・・・。

金は化学的に安定で腐食しにくく、長い間輝きを失うことがない、また産出量が少ないため太古の昔から大きな価値を持つものとして最高の財宝とされてきたのだろう。

価値の代名詞としての金貨の我が国での始まりは天平年間に使用された開基勝宝とされており、日本銀行 金融研究所 貨幣博物館に所蔵されている。

これまでに世界各地でゴールドラッシュが起こりそこへ人々が殺到した歴史が何度もある。代表的な米国カリフォルニアのゴールドラッシュについて調べてみた。

1848年にシエラネバダ山脈から流れ出るサクラメント川の支流アメリカン川の中流の村コロマで金塊（大きな砂金？）が発見された事に始まった。

米国内外から（ヨーロッパ、アジア等）約30万人が一攫千金を夢みてこの地へ殺到し、1855年頃までの約10年で1300トンを超える金が採掘されたとの記録がある。

この影響でサンフランシスコは当時500人程の小さな開拓村にすぎなかったが15万人の都市へ変貌、1850年にはカリフォルニアは合衆国31番目の州となった。また、大陸横断鉄道など交通網も整備されその後の州に繁栄をもたらすこととなった。

ゴールドラッシュはアメリカン・ドリームとは一味違うカリフォルニア・ドリームと云う独特の意識を醸成し大規模農業、石油採掘業、映画産業、航空機製造業、IT産業と現代へ続くカリフォルニア独自の産業を育て富をもたらすことになった。

これ以外にも1851年オーストラリアビクトリア州、1861年ニュージーランドオタゴ、1896年カナダユーコン準州クローンダイクなどにもゴールドラッシュが起こった。我が国では、あまり話題となっていないが幕末から明治中期にかけて北海道で砂金採集の一大ブームがあったようである。

明治維新の解放によりそれまで内地の藩、家に閉じ込められていた農家の次男坊、三男坊などが自由と一攫千金の夢を求めて北海道各地の山川へ入り砂金採りを行い、小指の先程の大きな砂金が大量に取れたそうである。また大相場師で鉄道王であった雨宮敬次郎は砂金採掘団を1887年～1894年頃松前に送り込んだという記録も残っている。

\*私は1992年7月にリフレッシュ休暇をもらい家族で北海道旅行の途中、浜頓別町に1泊して頓別川の支流宇曾丹川で砂金採集を試みたが半日で2-3mm程の砂金10粒程の成果であった。

日本は火山国のため温泉が多く金銀の濃集が起こり易い地殻構造により昔から金の産出量が多いとされている。

14世紀の初頭マルコ・ポーロは「東方見聞録」で黄金の国ジパングとして日本を次のようにヨーロッパに紹介し、その後の大航海時代を誘発したと云われている。

「ジパングは東海にある大きな島で・・・・・・・・黄金は無尽蔵にあるが国王は輸出を禁じている・・・・・・・・」（青木富太郎訳）

ところで黄金=金だろうか？

黄金（コガネ）=粉金（コガネ）=砂鉄との説もある、鉄の需要と供給とからこのような解釈となった時代もあったと思われる。

平家物語などに登場する金売り吉次も奥羽地方の鉄（砂鉄）を畿内に販売する鉄のバイヤーであったとの説もあって興味深い（もちろん金



も扱っていたのであろうが・・・)。

中世に入って人口が増え食糧増産が必要となりそのために鉄製農器具に大量の鉄需要がおこった、やがて食糧生産が増えるに従い余剰品を基礎に貴族階級や彼らを守る武士階級が台頭して、武器としてさらなる鉄の需要を生むことになる。

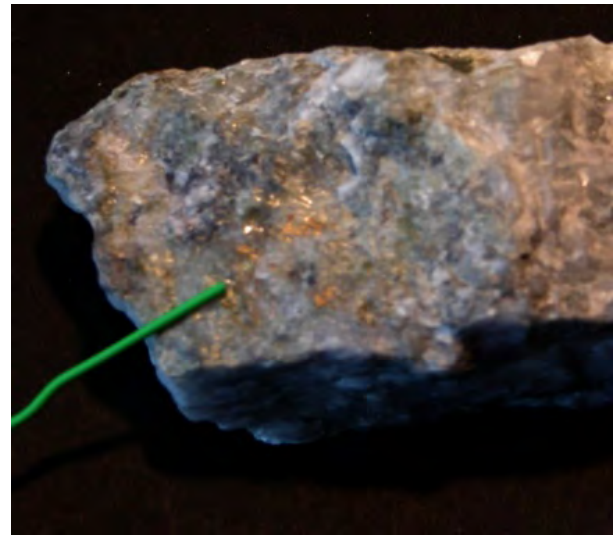
全国各地に金山神社や金田明神など金をイメージする神社が多数あるが、これはその近辺で金や鉄、銅などが採掘されていた名残りだと判断してよいだろう。

採掘といっても現在の鉱山のような機械方式の大規模鉱山でなく砂金、砂鉄採集程度の規模であったと予想される。

さて右の写真をご覧ください。

これは1988年1月に埼玉県某所で採集したものある、蛇紋岩と苦灰石の境界面に膜状に濃集した金で、ハンマーで岩石を砕き金の輝きに遭遇した時はまさにビビッと来るものがあり、これが黄金の輝きか！と感動したものである。

\*光の加減で見にくいですが緑の棒の先付近の薄褐色部分が金 <苦灰石上の自然金>



<参考文献>

- ・「カリフォルニアの黄金」 越智道雄著  
朝日新聞社（朝日選書）
- ・「ジパング黄金伝説」佐治芳彦 著  
自由国民社
- ・新編「砂金掘り物語」脇とよ 著  
みやま書房
- ・「相場師異聞」鍋島高明 著  
河出書房新社
- ・「貨幣博物館パンフレット」  
日本銀行 金融研究所

## 出前授業 石黒 英憲

昨秋、財団法人 省エネルギーセンターの企画されました全国の小学校での「省エネ出前授業」を「省エネ家電コンサルジュ」として、長岡京市立長岡第7小学校と向日市立向陽小学校で実施しました。

その模様は京都新聞でも報道されましたのでご報告いたします。

小学生に地球温暖化とは？ 何故起きているか？ どうして防止するか？ そしてその実行方法を具体的に解説するものです。

小学校の4年生や5年生には地球環境問題などは難しいのではないかと考えておりましたが、実際に訪問してみると、既に授業で取り上げられており、よく理解していました。

特に5年生になると、温暖化効果ガスとして二酸化炭素のほかに、オゾンやメタンガスがあることも理解している子供がいることで

びっくりしました。

今後もこのようなボランティア活動に積極的に取り組んで行き、少しでも社会に貢献できればと考えております。



## OB会連絡

### —新入会員紹介—

平成21年8月以降入会された会員を紹介します。(敬称略)

1313	田中 輝夫	1404	吉永 秀	1409	徳田眞三
1314	中根 正見	1405	植松 正晴	1410	多聞 講一
1315	加藤 順三	1406	稲口 芳春	1411	井入 誠一
1402	村瀬 潤	1407	杉山 頼道		
1403	中村 正博	1408	松木 雄三		

### —新入会員懇談会—

平成21年11月18日(水)正午、本社22会議室にて、第13期OB会新規入会者の森山晶成さん、井上純一さん、村瀬潤さん三人と幹事の小谷、川越とで一緒に昼食をとりながら、OB会の目的と今後の活動等について説明をしました。

この懇談会は、先々期から始めたもので、入会直後の方々にOB会をよりよく理解をして頂き、諸活動に参加してもらおうとの趣旨で実施するものです。実際懇談してみるとそれぞれの事情とお考えがよく分かり、今後の運営にも大変有意義な機会となりました。参加して頂い

た方々に感謝いたします。



### —会員の訃報—

下記の会員が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

●平成22年4月12日 井上 純一様

●平成22年8月7日 西田 昇様

### —堀場OB会ホームページ紹介—

堀場OB会のホームページではクラブ活動をはじめ各種の行事案内、報告を掲載しています。

閲覧件数も15000件を超え多くの会員の皆様に見ていただいていると思います。魅力あるホームページにするためにご意見、ご提案をお寄せ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor/>

会報はモノクロ版でお届けしていますが、ホームページにはカラー版の会報を掲載していますのでご覧下さい。

ホームページの会報閲覧は「会報ボタン」をクリックするとパスワード入力画面が表示されますので、下記のパスワードを入力していただくと会報の画面に変わります。

会報閲覧パスワード [horibaob](#)



---

## —堀場製作所OB会会員一覧について—

堀場製作所OB会の会員名簿は、個人情報保護のため会員の皆様に配布しておりませんが、OB会の会員状況を知っていただくため会員番

号、氏名のみ記載した「会員一覧」を添付させていただきますのでご覧ください。

---

## ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

### —上海に新工場建設（拡大・集約化）—

現在、計測機器と半導体製造装置向け部品の生産拠点が上海市内の2か所に分散しているが、このたび新工場を建設して集約される。そして新たに医用機器用の試薬生産も加えて、

2011年春までに集約を完了する。既存の2工場に比べ広さは1.5倍となり、投資額は3億1千万円となるとのこと。

---

### —2010年業績見込み・・・連結売上1,180億円—

2010年第1四半期の業績では、主として自動車落ち込み、半導体が大幅に増大しました。

この結果から、2010年度の連結損益計画が上方修正されました。現状金融や為替の市場

がまだまだ不安定であり、先行きを楽観することは出来ないとしながらも、First Class Qualityのもと、製品やサービスの品質向上及び業務品質の向上でグループ一弾となって努力して行くとの決意がなされました。

---

## 編集後記

今年は、地球レベルでの気候異変のためか、当28号会報の編集中も、連日の猛暑で筆が進まず、発行日が遅れるという屁理屈を見つけました。

さて、現在OB会のホームページでは、諸活動の殆どを速報していますので、会報の役割も報告ということに関しては、ネットのペーパー版という傾向となってきています。その上、最近のOB会諸活動も期初に計画したものは、確実に実行されていますので、殆どの会員は、会報を待つまでもなく、活動情報をお知りのことでしょう。

しかしながら、会報については、パソコンいらずで、いつでもどこでも読めて、保存性が良いということで、今後とも継続して行きたいと思っています。しかしコンテンツについては、多くの皆さんから紙面をもっともっと飾って頂き、ネットには無い、味わいのあり、血の通ったいわば”マイ会報”となる様お願いして行きたいと思っていますので、次号からは一層のご協力をお願いします。

末筆ながら、ご入会后、大変残念ながら急逝されました井上純一様に、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

\*\*\*\*\*  
\*  
\* **堀場製作所OB会** \*  
\* 〒601-8510 \*  
\* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 \*  
\* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 \*  
\* URL <http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor> \*  
\* E-mail horiba.ob@gmail.com \*  
\*\*\*\*\*